

# 電磁応用

第7号 1983年12月

## 去る9月6日理事長亡くなる

去る9月6日、理事長川原田政太郎は93才を以て永眠した。8月頃より暑さに体調をくずして、老衰がひどく遂に立ち直ることが出来なかった。

9月8日 東京都町田市三田方にて密葬

9月21日 早大大隈小講堂にて本葬（研究所・早大電気・電子合同葬）

9月27日 富山県魚津市名誉市民葬

9月28日 魚津市に対し文化事業基金として研究所及び遺族より寄附金

10月29日 多摩霊園に埋葬

この間非常に多くの方々のご弔問を頂き、又多くの方々から手厚いご援助を頂いたことをここに深くお礼申上げる次第である。葬儀にあたり頂いた弔辞等の大要を掲げてお礼の言葉に代えさせていただく。

### 葬儀委員長山崎秀夫氏

川原田先生は三百以上の特許をお持ち偉大な発明家である。又大学の講義は極めて明解な名教授であった。お身体は丈夫でお酒がお好きで、ユーモアに富み安来節と浅草をこよなく愛されていた。母校愛も強く創立80周年の募金には全国を歩かれた。故郷を愛され魚津の名誉市民であることを非常に喜んでおられた。又最後の数年間を長女宅で本当に平穩に過ごされたことは本当に良かった。また長男のご努力で研究所の基盤が確立し、早大より多くの先生方が協力されることとなり先生の名前が永久に残ることとなったことも本当によかった。先生は天国でも又沢山の研究をなさるのであらう。

### 早大総長 西原春夫氏

川原田先生は若くして家業が失敗し、苦学を重ねて大正4年早大の電気科を卒業間もなく恩師山本忠興先生の招きにより母校の助手となり、それ以来40余年間後進の指導に当たられた。又、先生は発明の人であった。早大式テレビを始め数々の発明をされた。不断の研究を続けられた先生は早稲田の鑑である。

### 研究所代表 剣木亨弘氏

川原田先生は無欲括淡であつた。先生との交友は数十年になるが、お互いに年を忘れての楽しいお酒の交わりであった。研究のお助けは出来なかったが、先生の研究のストレス解消のお手伝いは出来たように思う。研究所は今先生の遺徳を慕う研究者で一杯であり、今後も輝かしい成果が生まれることと思う。

### 魚津市長 清河七良氏

川原田先生は魚津の生んだ偉大な科学者である。昭和45年1月魚津名誉市民に推戴され5万の市民の敬愛を受けられた。又愛郷の念厚く記念館には数多くの研究資料が飾られている。昨年8月市制30周年式典にお元気にご参列頂いたのが最後の魚津ご訪問となった。今先生を失ったことは痛恨の極みである。

魚津市議会議長 後藤吉松氏

川原田先生は魚津を愛され、郷土の発展のために数々のご尽力をされた郷土の大きな存在であった。我々は今後先生の遺徳をけがすことのないよう在りし日のお姿を追慕しつつ、市勢発展の為一層の努力いたす所存である。

早大理工学部長 加藤忠蔵氏

川原田先生と山本忠興先生の協力になる早大式テレビの公開放送は世界のテレビ史に輝くものである。先生はまた数々の賞を受けられている。電磁応用研究所長として独自の研究を続けられたことは我々の指標である。

早大電気・電子科代表 示村悦二郎氏

教室で真の意味を深く考察することを教授された川原田先生の名講義は今でも忘れられない。数々の発明をされたが、OYK電動機を大学を卒業後四五年で完成されたことは驚異である。電気科教室には先生の伝統が今も息づいている。

早大電気工学会会長 石塚喜雄氏

川原田先生の数々の発明の成果は、今日上野の国立博物館に十指に満たぬ学者の一人として展示されている。私は少年の頃科学雑誌等で先生の輝しい業績にあこがれていた。先生は早稲田大学電気科のシンボルである。

早大名誉教授 松原 普氏

先生は私の理想とする人のお手本であった。大学卒業後テレビサーカスに加えられ、札幌NHKにお世話頂き、御陰でスキーを身につけ今も続けている。先生から「シャレ」のご指導を頂いたことも思い出である。最早何もお教え頂くことが出来なくなつたが、いづれ冥土でお会いして又ご指導頂くつもりである。

### 川原田政太郎の歩み

1890明治23 (1)	8月7日富山県魚津下野方村に誕生
1897明治30 (8)	下野方村尋常小学校入学
1901明治34 (12)	魚津尋常高等小学校入学
1904明治37 (15)	明鏡堂西田医院見習い
1907明治40 (17)	上京東京中学3年編入
1908明治41 (18)	西田医院閉鎖のため魚津に戻る
1909明治42 (19)	再度上京郁文館中学4年に編入
1910明治43 (20)	婦魚、天神尋常小学校代用教員
1911明治44 (21)	一族北海道へ移住、三度上京早大理工科予科入学
1915大正4 (25)	榑小穴製作所入社
1918大正7 (28)	早大電気科助手
1918大正8 (29)	早大電気科助教授、楠見管子と結婚
1920大正9 (30)	誘導同期電動機(OYKモータ)発明
1921大正11 (32)	欧米留学に出発
1924大正13 (34)	フランス学会誌に「誘導同期電動機」発表
1926大正15 (36)	早大教授、発明協会恩賜記念賞授賞
1930昭和5 (40)	朝日講堂にてテレビ公開
1933昭和8 (43)	欧米学術視察
1936昭和11 (46)	電磁工業研究所所長、電気振動装置発明
1940昭和15 (50)	発明功労者として2600年記念授賞、馬力計発明
1944昭和19 (54)	駒込・(財)航空電磁応用研究所所長、電気時計発明
1945昭和20 (55)	磁歪現象研究により軍需大臣より表彰、甘藷貯蔵研究

1949昭和24 (59)	甘藷貯蔵研究により農林大臣より感謝状 富山新聞文化賞、発明協会表彰状
1950昭和25 (60)	藍綬褒章授賞、毎日工業技術賞
1959昭和34 (69)	欧米学術視察
1961昭和36 (71)	早大定年退職、早大名誉教授
1962昭和37 (72)	北日本新聞文化賞
1964昭和39 (74)	勲4等旭日小綬章
1970昭和45 (80)	魚津市名誉市民
1981昭和56 (91)	研究所駒込より青山に移転
1983昭和58 (93)	逝去

#### 魚津市における故理事長の展示品

故理事長の意志により2回に亘り郷里魚津市に発明関係資料が寄附されている。これ等の品々は大切に保存展示されている。

#### 魚津市歴史民俗資料館 (天神山)

電機時計	1	TIC電磁親子時計
トランジスタ時計	1	特許第1号
野球バット	1	振動計によりホームラン線を記入したもの
柱掛時計	1	電磁形振子時計
写真	2	地下鉄ストア大時計

#### 川原田政太郎記念室 (魚津市本江公民館)

光線モータ時計	2	試作品
電磁親子時計	2	
立形電磁時計	1	
標準時計	1	
磁歪馬力計	1	
称号記 名誉市民	2	
図書	3	発明の人、京の宿
写真	2	地下鉄ストア大時計

#### 第9回電気技術懇談会 (58, 10, 13)

早大の古川敏夫氏から最適軌道追従制御問題について講演を聞いた。此の問題は最短時間制御と最適予見制御を組み合わせた形で考察されている。此の講演の後活発な討議が行われ、今後検討すべきいくつかの問題が提起された。

出席者 示村悦二郎 (早大) 藤川英司 (武蔵工大) 内田健康 (早大)  
石島辰太郎 (都立工科短大) 山中一雄 (茨城大) 小林尚登 (農工大)  
小野治 (明大) 川敏雄 (早大)

#### 第10回電気技術懇談会 (58, 11, 10)

早大の藤田政之氏より「特定の極のみを移動させ、且つintegrityを保証するフィードバック則」について講演をうけた。此の講演は、動作中の制御系のループが切断された場合でも系全体の安定性を保証する問題に一つの解決策を与えるものである。

次に早大の内田健康氏よりミュンヘン工科大学自動制御研究室の紹介と「結合系の最適制御における情報のreduction」の講演が行われた。活発な質疑討論が行われ、有意義な会合であった。

出席者 示村 (早大) 奥田 (鳥取大) 藤川 (武蔵工大) 石島 (都立工科短大)  
川崎 (高知大) 小林 (農工大) 山中 (茨城大) 古川 (早大) 関口 (早大)  
藤田 (早大) 内田 (早大)

#### 第14回通信技術懇談会(58, 7, 18)

7月20日に宇宙開発委員会の長期ビジョン特別部会から提出された新しい「我が国の宇宙開発に関する長期ビジョン」について懇談を行った。57年2月に決定した長期ビジョンが、近年における米国のスペースシャトルの実用化や、欧州宇宙機関(EISA)のアリアンロケット打ち上げ等の新事態の中で、見直しを迫られたもので、新ビジョンでは質、量共に今後益々発展してゆくのであらう世界の宇宙開発を展望する時、我が国としても国際社会に貢献しつつ宇宙開発によつて得られる利益を充分教授する必要がある、このためにはロケット、衛星その他について十分な技術力を持つことが重要であるとしている。

此の観点から、自主技術の開発、開発と利用の調和、国際協力を3本の柱として、「2トン級の静止衛星打ち上げ能力を持つた大型H-IIロケットを60年代中頃を目に自主開発する」ことを始め、従来の諸計画を大幅に促進するよう改定しており、郵政、電電の要望をはば全面的に採り入れる、実現可能を念頭においたものとして評価される。

我々としてはINSの円滑な構築の為にも、宇宙開発政策がこのビジョンにより見直され、速やかに実施に移ることを期待したい。

#### 第15回通信技術懇談会(58, 8, 29)

##### 一農山漁村地域に於けるINSの利用方法の検討一

農山漁村地域においてもINSの恩恵を享受するための検討を体系的に行つた資料により検討を行った。

具体的手法としては農山漁村地域におけるニーズと適した64Kb/s網(16Kb/s加入者線)の使用法を調べることにしているが、これは更に検討すべきであらう。

まず、在来のメタリックケーブルの有効利用を考え、端末としては汎用性のある電話機、FAX、静止画像端末を想定し、新しく開発する装置としてファクシミリからマークシート入力、キャプテンの内容のミニファクシミリよるハードコピーの送出、広域コードレスホン、一斉放送方式へのポケットベルの適用等の提案となっている。

しかし、現存する有線放送システム、テレホンサービス等の実態との関連の検討を行うなら更に明確なイメージになると思われる。何れにしても農山漁村地域の開発整備諸計画との連携が重要と思われた。

#### 第16回通信技術懇談会(58, 9, 26)

##### 一オフィス・オートメーション・ネットワーク一

郵政省はOA発展の基盤となるOAネットワークに関し、ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)および電子式構内交換機(FPBX)等の開発・実用化動向を踏まえ、電気通信行政的的確な展開をはかる「OAネットワークに関する調査研究」を開始している。

- ① LAN等のOAネットワークに関する技術・利用動向
  - ② OAネットワークに関する事項の標準化動向
  - ③ 利用者の意向とメーカーの対応状況
  - ④ OAネットワーク化に関する課題(LANと公衆網の接続等)
- 以上の資料について種々討議を行つた。

#### 電磁応用 第7号

昭和58年12月1日発行

編集発行人 川原田安夫  
発行所 (財)電磁応用研究所  
〒107 東京都港区南青山5-1-10-808  
電話 東京 (03) 499-1888